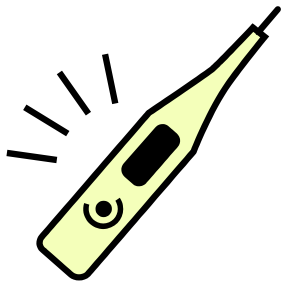


たんぽぽ通信

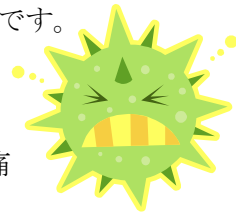
Vol.30 2012年1月10日発行 薬局事業部

発熱と痛み



体温は、体の状態を知る目印として広く使われています。平熱には個人差があり、それぞれの元気な時の体温より1℃以上高い時を発熱と言います。発熱は体の防御反応の一つと考えられており、熱により病原菌の増殖が抑制され、白血球の機能が促進し免疫機能が高まると言われています。18~19世紀に解熱剤が開発された当時にはすぐに熱を下げた方が良くとされていましたが、現在では解熱剤を使用しない場合もあります。自己判断で薬を服用せずに、医師の判断に従ってください。

解熱鎮痛薬は、のどの痛みや熱で処方される機会の多い薬です。その働きの一つは、脳にある体温調節の箇所働いて熱を下げ、皮膚から熱を逃がします。もう一つは、痛みの神経に働いて興奮を抑え、痛みを緩和します。さらに炎症部位で痛みを引き起こす物質の生成を抑えます。ギリシャ語由来の **analgesic** 「痛みをなくす」英語の **Painkiller** 「痛みを殺す」でもわかるように原因に作用するのではなく、痛みを感じにくくするのがこの薬の働きです。歯医者さんに通うのが怖い、または時間が無いという理由で、痛み止めを服用し続け根本治療の開始が遅れると、治癒するまでの時間も長くなりますのでご注意ください。



薬局からのお話 第30話



解熱鎮痛薬を飲むときに注意する事はありますか？

解熱鎮痛薬の多くは、胃が重くなったりする胃腸障害の副作用があります。胃を守るためには、食後すぐに薬を飲む事です。空腹時にやむを得ず飲む場合には、牛乳を飲んでから服用します。また、水の量が少ないと薬が溶けきれず食道に貼り付き、食道がただれることあるので、コップ一杯のお水で服用しましょう。



また、痛み止めは痛みを感じさせるプロスタグランジンの生成を抑えますが、プロスタグランジンは体のいろいろなところで働いており、その一つに胃の粘膜を保護する働きもあります。従って痛み止めを服用していると胃の粘膜の保護作用も少なくなるという事になります。胃の不快感がある場合には医師にご相談ください。

さらに、解熱鎮痛薬は、一つの薬で痛みを抑え、熱を下げる効果を持つため色々な診療科で処方されることがあり注意が必要です。

複数の病院を受診の際には、是非、薬剤師にご相談ください。



たんぽぽ通信からのお知らせ

ご質問、ご意見などございましたらお近くのエムトゥエムの調剤薬局にご相談ください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

